

4 学習指導のポイント

ふくしま学力調査を授業改善等に生かす学習指導のポイントをまとめました。

(1) **教科別授業改善の視点**では、授業改善の視点を概的に示しています。

(2) **国語**、(3) **算数・数学**では、今年度の調査問題から、各学年、各教科において中位程度の難易度レベルの問題から、正答率が低く課題と考えられる問題に焦点を当てて、県全体の児童生徒の正答率を示すとともに、学習指導上の課題及び授業改善に生かす指導上のポイントをまとめました。また、「ふくしま活用力育成シート」や「定着確認シート」及び全国学力・学習状況調査問題との関連や活用の仕方等をまとめました。ぜひ授業改善に御活用ください。

なお、ふくしま学力調査は、児童生徒の学力の伸びを正しく捉えるという調査の性質上、問題は原則非公開となっており、問題の秘匿性の保持のため、調査後の問題冊子は回収します。また、コピーや書き写しも禁止となっております。

(1) 教科別授業改善の視点

1 国語

① 育成すべき資質・能力を明確にした指導計画の改善

「指導事項が精選されているか」、「言葉による見方・考え方が適切に働くか」、「効果的な言語活動が設定されているか」の3点を踏まえ、育成すべき資質・能力を明確にして指導計画を作成します。また、指導計画を作成する際は、資質・能力の育成を単元などの一定程度のまとまりで考え、指導と評価の一体化を図ることが大切です。

② 言葉を投げどころにする言語活動の設定

言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成するという国語科の目標を踏まえ、言語活動が「言葉を投げどころにする活動になっているか」、「資質・能力を育成する上で効果的な活動になっているか」を確認し、質の向上を図ります。なお、言語活動による成果物の作成に多くの時間を費やしたり、成果物そのものを評価したりすることのないように注意が必要です。

③ 評価方法の工夫・改善

指導と評価の一体化を図るために、育成する資質・能力と評価規準を一致させます。評価規準を設定する際には、「目指す資質・能力が育成された児童生徒の姿」を明確にすることが大切です。このことにより、学習活動や教師の働きかけなどもよりよい方法が見えてきます。また、学習評価は、指導に生かしたり、記録に残したりする上で適切な評価場面と評価方法を十分に検討することでより効果的なものとなります。

2 算数・数学

① ゴールからの授業構想

育成すべき資質・能力を明確にした上で、その授業で児童生徒がどのような振り返りをするのか、具体的な児童生徒の姿でイメージし、学習課題を設定していきます。そうすることで、授業に芯が通り、課題解決場面でのコーディネートが見えてきます。あくまで、授業のゴールへ向かうレールを引くのではなく、児童生徒の考えをつないでいくことを重視して授業を構想することが大切です。

② 学びの質を高めるコーディネート

児童生徒が学習内容を自分事として主体的・対話的に学ぶことができるように、教師は授業をコーディネートします。児童生徒が働かせた「見方・考え方」を見逃すことなく注意深く見取り、称賛したり広めたりして深い学びを実現します。そのために、授業では、児童生徒の考えや気付きをつなげる問い返しや、再生・要約など、共有させる働きかけにより、思考に深まりをもたせ、学びの質を高めることが期待できます。

③ 適用と振り返り

全体で確認しながら解決した問題を基に、児童生徒自身が数値や条件を変えた問題を自力解決するなど、解決の過程を振り返りながら確かめることができる場を設定しましょう。振り返りながら適用することで、より確かな理解につながったり、新たな問いが生まれたりし、深い学びとなることが期待できます。